

考古かながわ

第24号

2002年8月15日

2002年度総会報告

議事1 2001年度事業報告

1 総会の開催

6月3日、かながわ県民センターにおいて前年度事業報告・会計報告および本年度事業計画案・予算案の提示を行ない承認された。併せて考古トピックスを実施した。参加者約100名。

2 役員会・幹事会の開催

・臨時役員会 2001年6月6日

神奈川県立埋蔵文化財センター

・幹事会 2001年7月18日 かながわ労働プラザ

・役員会 2001年9月19日 かながわ労働プラザ

・幹事会 2001年11月21日 かながわ労働プラザ

・役員会 2002年2月13日 かながわ労働プラザ

・役員会 2002年5月15日 かながわ労働プラザ

(役員会は会長・副会長・全役員、幹事会は会長・副会長・部会の長および総務部会員で構成)

3 遺跡調査・研究発表会

第25回神奈川県遺跡調査・研究発表会を10月13日、平塚市中央公民館で行なった。発表11件、誌上発表3件。記念講演は苅谷俊介氏。参加者約350名。

4 会誌『考古論叢神奈河』第10集の刊行

2002年3月31日刊行。論文7本、116頁、500部印刷。

5 連絡誌「考古かながわ」の刊行

・第21号 2001年9月26日 A版化

・第22号 2002年1月31日

・第23号 2002年3月31日

6 考古学講座の開催

「かながわの中世 ～鎌倉から小田原へ～
—土器様相を中心として—」と題して2002年2月24日にかながわ県民センターホールにて開催。参加者約130名。

7 遺跡見学会の開催

・2001年11月2日 横浜市称名寺発掘調査現場。参加者約30名。
・2002年3月17日 群馬県保渡田古墳群・かみつけの里博物館・上野国分寺。参加者43名。

8 役員会・幹事会における主な検討事項

- ・会誌A版化
- ・封筒・振込用紙等の印刷
- ・総務は、催しの際に入会申込み用紙・行事案内等を用意する。
- ・発表要旨は当日に売切れの出ない部数を確保する。
- ・残部のある連絡誌のバックナンバーを無料で新入会員に配布できないか。
- ・考古論叢のバックナンバーを県内公立図書館に無料配布。(役員会では前年度決定していたが、実施直前に総会で承認を経てからにするべきとの意見が出された。)
- ・連絡誌の合本・公の施設への配布はしない。(出費抑制・個人情報に掲載されているため。)
- ・見学会で行く遺跡について、事前に紹介記事を

連絡誌に載せてはどうか。

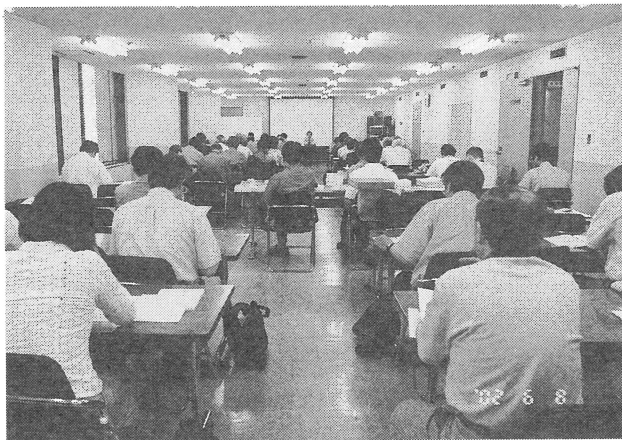
・印刷配布品の価格決定について、印刷費を部数で割り返して決定することなく、会員には廉価もしくは無料で配布できるように努力する。

※昨年度の役員会では機構改革について検討し、総会で承認されたことにより事務の効率化が推進され、業務分担の一部役員への集中が緩和された。

※本年度は会員にとってメリットのある会にするためにはどのような事業展開をするべきか、会費に見合った刊行物の無償配布はできないかについて議論が集中した。次年度で具体策を提示できるように努力する。



総会



考古トピックス

議事2 2001年度収支決算報告

(収入の部)				説明
節	予算額	決算額	比較増減額	
会費	1,395,000	1,335,000	▲ 60,000	旧年度会費 3,000 × 104名 = 312,000 本年度会費 3,000 × 301名 = 903,000 次年度会費 3,300 × 40名 = 120,000
機関誌等売り上げ	1,000,000	1,263,080	263,080	発表会要旨 244,400 (内訳) 25回要旨(会員) 500 × 143部 = 71,500 25回要旨(一般) 1,000 × 138部 = 138,000 25回要旨(委託) 800 × 0部 = 0 16回要旨(会員) 1,000 × 2部 = 2,000 16回要旨(一般) 1,300 × 0部 = 0 17回要旨(会員) 1,000 × 2部 = 2,000 17回要旨(一般) 1,300 × 0部 = 0 18回要旨(会員) 1,200 × 1部 = 1,200 18回要旨(一般) 1,500 × 0部 = 0 19回要旨(会員) 1,200 × 1部 = 1,200 19回要旨(一般) 1,500 × 0部 = 0 20回要旨(会員) 1,200 × 4部 = 4,800 20回要旨(一般) 1,500 × 0部 = 0 21回要旨(会員) 500 × 2部 = 1,000 21回要旨(一般) 1,000 × 0部 = 0 22回要旨(会員) 700 × 4部 = 2,800 22回要旨(一般) 1,000 × 0部 = 0 24回要旨(会員) 800 × 8部 = 6,400 24回要旨(一般) 1,500 × 5部 = 7,500 24回要旨(委託) 1,200 × 5部 = 6,000
				考古論叢 455,580 (内訳) 論叢2(会員) 1,800 × 2部 = 3,600 論叢2(一般) 2,500 × 0部 = 0 論叢2(委託) 1,840 × 2部 = 3,680 論叢3(会員) 1,800 × 2部 = 3,600 論叢3(一般) 2,500 × 1部 = 2,500 論叢3(委託) 2,000 × 3部 = 6,000 論叢4(会員) 1,800 × 4部 = 7,200 論叢4(一般) 2,500 × 0部 = 0 論叢4(委託) 2,000 × 6部 = 12,000 論叢5(会員) 1,800 × 0部 = 0 論叢5(一般) 2,500 × 0部 = 0 論叢5(委託) 2,000 × 7部 = 14,000 論叢6(会員) 1,500 × 3部 = 4,500 論叢6(一般) 2,500 × 0部 = 0 論叢6(委託) 2,000 × 4部 = 8,000 論叢7(会員) 1,500 × 5部 = 7,500 論叢7(一般) 2,500 × 1部 = 2,500 論叢7(委託) 2,000 × 11部 = 22,000 論叢8(会員) 1,500 × 16部 = 24,000 論叢8(一般) 2,500 × 11部 = 27,500 論叢8(委託) 2,000 × 50部 = 100,000 論叢9(会員) 1,500 × 36部 = 54,000 論叢9(一般) 2,500 × 30部 = 75,000 論叢9(委託) 2,000 × 39部 = 78,000
				講座要旨 561,700 (内訳) 講座古代論叢(会員) 700 × 3部 = 2,100 講座古代論叢(一般) 1,000 × 1部 = 1,000 講座縄文経路Ⅰ(会員) 700 × 6部 = 4,200 講座縄文経路Ⅱ(一般) 1,000 × 10部 = 10,000 講座弥生(会員) 700 × 4部 = 2,800 講座弥生(一般) 1,000 × 1部 = 1,000 講座古墳(会員) 700 × 4部 = 2,800 講座古墳(一般) 1,000 × 1部 = 1,000 講座古墳成果(会員) 100 × 7部 = 700 講座古墳成果(一般) 400 × 0部 = 0 講座縄文ムラ(会員) 800 × 9部 = 7,200 講座縄文ムラ(一般) 1,000 × 6部 = 6,000 講座縄文ムラ(委託) 800 × 4部 = 3,200 講座寺院(会員) 500 × 17部 = 8,500 講座寺院(一般) 1,500 × 24部 = 36,000 講座寺院(委託) 1,200 × 14部 = 16,800 講座寺院成果(会員) 500 × 54部 = 27,000 講座寺院成果(一般) 1,500 × 28部 = 42,000 講座寺院成果(委託) 1,200 × 45部 = 54,000 講座旧石器(会員) 800 × 20部 = 16,000 講座旧石器(一般) 1,500 × 48部 = 72,000 講座旧石器(委託) 1,200 × 73部 = 87,600 講座中世(会員) 500 × 76部 = 38,000 講座中世(一般) 1,500 × 78部 = 117,000 講座中世(委託) 1,200 × 4部 = 4,800
				トピックス (内訳) トピックス2000(会員) 100 × 6部 = 600 トピックス2001(一般) 100 × 8部 = 800
雑収入	4,946	211,477	206,531	見学会参加費/預金利子/観覧会残引/他 211,477
繰越金	1,900,054	1,900,054	0	前年度繰越金 1,900,054
合計	4,300,000	4,709,611	409,611	

(支出の部)				説明
節	予算額	決算額	比較増減額	
事務局費	710,000	549,546	▲ 160,454	連絡費 357,085 会議費 20,108 行事開催費 44,023 賃金 115,530 会費振込手数料 12,900
会誌費	1,150,000	854,950	▲ 295,050	5,950 819,000 30,000
連絡誌費	180,000	121,335	▲ 58,665	連絡費 1,950 印刷費 119,385 謝礼 0
発表会費	610,000	378,137	▲ 231,863	連絡費 27,760 会議費 0 行事開催費 90,377 印刷費 210,000 謝礼 50,000
講座費	660,000	521,058	▲ 138,942	850 連絡費 12,987 会議費 56,621 行事開催費 451,500 印刷費 0 謝礼 0
見学会費	130,000	189,020	59,020	連絡費 24,200 会議費 3,000 行事開催費 121,820 謝礼 40,000
予備費	860,000	0	▲ 860,000	0
合計	4,300,000	2,614,046	▲ 1,685,954	

会計監査報告

2001年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照会した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2002年5月30日

監事 市川規平 印

伊藤 郭 印

議事3 2002年度事業計画案

1 総会の開催

2002年6月8日、かながわ県民センターにおいて前年度事業報告・会計報告および本年度事業計画案・予算案の提示を行なう。併せて考古トピックスを実施する。

2 役員会・幹事会の開催(予定)

- ・幹事会 2002年7月17日
- ・幹事会 2002年9月18日
- ・役員会 2002年10月16日
- ・幹事会 2003年1月15日
- ・役員会 2003年3月19日
- ・役員会 2003年5月21日

3 遺跡調査・研究発表会

第26回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2002年11月24日、横須賀市教育委員会・横須賀考古学会と共催で横須賀市民会館にて行なう。

4 会誌『考古論叢神奈河』第11集の刊行

2003年3月刊行予定。

5 連絡誌「考古かながわ」の発行

第24～26号を発行する。第24号は7月発行予定。

6 考古学講座の開催

2003年2月8日にかながわ県民センターホールにて開催予定。内容未定。

7 遺跡見学会の開催

2回行なうが、1回は宮城県の貝塚などの見学を1泊で予定。

8 その他

(1) 考古論叢のバックナンバーを県内公立図書

館に無料配布することについて。

残部のある刊行後3年以上たったもので、本会が発送経費を負担しないで済むことに同意する館について、館より寄贈の依頼があった場合にのみ対処する。

議事4 2002年度収支予算案

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,302,000	1,395,000	▲ 93,000	会費 3,000 × 434名 = 1,302,000
機関誌等売り上げ	1,263,080	1,000,000	263,080	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑収入	194,355	4,946	189,409	見学会参加費/預金利子/親睦会残り/他
繰越金	2,095,565	1,900,054	195,511	前年度繰越金
合計	4,855,000	4,300,000	555,000	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明	備考
事務局費	605,000	520,000	85,000	連絡費 500,000 会議費 30,000 行事開催費 50,000 資金 10,000 会費振込手数料 15,000	前年度の節「会議費」及び、連絡誌の発送費を含める
会誌費	1,000,000	1,430,000	▲ 285,000	連絡費 10,000 印刷費 960,000 謝礼 30,000	
連絡誌費	145,000			連絡費 5,000 印刷費 140,000	
発表会費	655,000	660,000	▲ 5,000	連絡費 35,000 会議費 10,000 行事開催費 110,000 印刷費 450,000 謝礼 50,000	
講座費	625,000	680,000	▲ 55,000	連絡費 10,000 会議費 15,000 行事開催費 100,000 印刷費 450,000 謝礼 50,000	
見学会費	200,000	150,000	50,000	連絡費 50,000 会議費 3,000 謝礼 50,000	旧:普及啓発費
予備費	1,625,000	860,000	765,000		
合計	4,855,000	4,300,000	555,000		

考古トピックス

次の諸氏により報告され、A4版26ページのレジメを作成した。

旧石器・縄文時代 —¹⁴C年代と較正暦年代—

御堂島 正

弥生・古墳時代 —三浦半島の弥生集落と相模の

横穴式石室— 穴戸 信悟

古代 —官衙・寺院・集落の調査事例を中心とし

て— 依田 亮一

中・近世

宮田 眞

案内

鎌倉市遺跡調査発表会 8月25日(日)

於鎌倉市中央公民館

鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会

神奈川県考古学会会則

(名 称)

第1条 本会は、神奈川県考古学会（以下「本会」という。）と称する。

(目 的)

第2条 本会は神奈川県を中心とする考古学の創造的な調査・研究並びに文化財の保護、普及及び啓発並びに会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会、遺跡発表会、講演会等の開催に関すること。
- (2) 会報、研究会誌、普及図書等印刷物の刊行に関すること。
- (3) 遺跡調査現地及び遺跡展等の見学に関すること。
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(会 員)

第4条 本会は、第2条の目的に賛同して入会した者で組織する。

- 2 会員になろうとする者は、入会を申し込み、会費を納入しなければならない。

(役員構成)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
 - (2) 副会長 1名
 - (3) 役 員 30名以内
 - (4) 監 事 2名
- 2 役員及び監事は、総会において会員から選出する。
 - 3 会長及び副会長は、会員の中から役員会で推薦し、総会の承認を得る。

(役員任務)

第6条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある

ときは、その職務を代理する。

- 3 役員は、役員会ならびに幹事会を構成し、協議する。

- 4 監事は、会計を監査する。

(役員任期)

第7条 役員任期は一期2年とする。ただし、再任を妨げないものとする。再任の任期は三期6年までとする。ただし、その後、一期2年以上を経れば選任を妨げない。

- 2 役員が任期満了に伴い、退任するときであっても、後任の役員が就任するまでの間は、引き続きその任務を行うものとする。

(役員会)

第8条 役員会は、会務にかかわる事項について審議する。

- 2 役員会は、必要に応じて開催する。
- 3 役員会は、会長、副会長、役員をもって構成する。
- 4 会長は、役員会に監事を出席させる必要があると認めるときは、出席させることができる。ただし、議決に加わることはできない。

(幹事会)

第9条 幹事会は、会務に係わる事項について審議し、執行する。

- 2 幹事会は、必要に応じて開催する。
- 3 幹事会は、会長、副会長、総務部会、各担当の長で構成する。

(顧問)

第10条 本会に、顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、神奈川県内において永年考古学の研究に従事し、貢献した者とする。
- 3 顧問は、役員会の推薦に基づき、総会で承認する。
- 4 顧問は、会長の求めに応じて役員会に出席して意見を述べるができる。ただし、議決に加わることはできない。

(会 議)

第11条 会議は総会、役員会及び幹事会とする。

2 会議の議事は、すべて出席者の過半数をもって決する。

3 会議は、会長が召集し、議長となる。

(総会)

第12条 総会は、通常総会と臨時総会とする。

2 通常総会は年1回とし、臨時総会は必要に応じて開催することができる。

3 総会は、事業計画、事業報告、予算、決算等を審議決定する。

4 総会は、会員をもって構成する。

(委員会)

第13条 本会の事業を推進するため、必要に応じて委員会を置くことができる。

2 委員会の設置及び運営については、別に定める。

(臨時編集委員の任命)

第14条 第3条2号の事業を行うにあたって、会長は必要に応じて、編集委員若干名を臨時的に任命することができる。

(会費)

第15条 本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。

2 前項の規定による会費の額については、別に定める。

(会員資格の喪失)

第16条 会員は、次の号のいずれかに該当するときは、会員たる資格を喪失する。

(1) 退会の申し出があったとき。

(2) 会費を2年以上納入しないとき。

2 前項の規定により、会員たる資格を喪失した場合には、既納の会費は返還しない。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の改正)

第18条 会則の改正は、総会の議決を得るものとする。

(事務局)

第19条 本会の事務局の場所は、別に定める。

2 事務局は、会長の総括のもとに事務を処理する。

3 事務局に会長が委嘱する書記を若干名置くことができる。

(その他)

第20条 この会則の定めるもののほか、会の運営に必要な事項は、役員会の承認を得て会長が定める。

附則 本会則は、1991年4月27日から施行する。

附則 本会則は、1997年6月30日から施行する。

附則 本会則は、2001年6月3日から施行する。

(規定1)

神奈川県考古学会会費規定

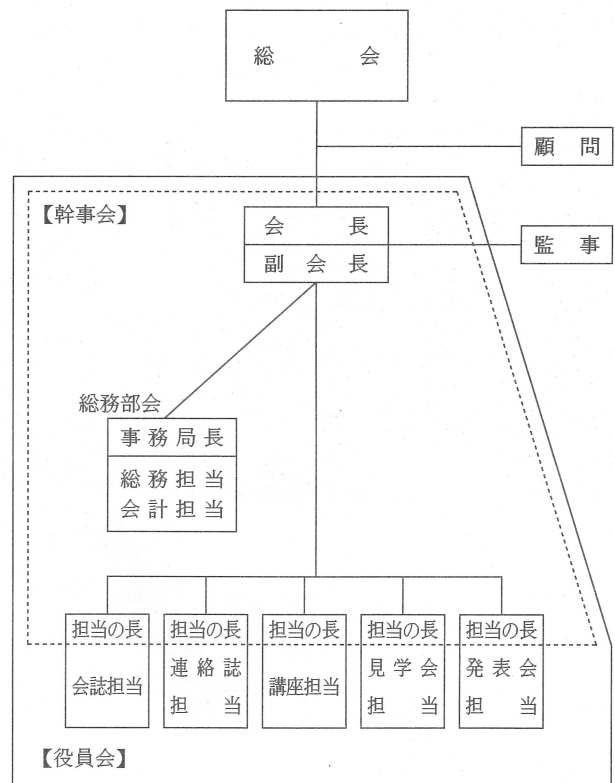
神奈川県考古学会会則第15条第2項による会費に関する規定を次のとおりとする。

(会費)

1. 会費は、年額3,000円とする。

附則 1991年4月27日 設立制定

《フローチャート》



群馬県保渡田古墳群見学

田中密敬

三月の春の一日、群馬県へ古墳の見学に行ってきました。

高速道路を通り、群馬に近くなってくると遠くには山々が連なり、そこまでは広い平野が続いています。日本人は農耕民族ゆえ、このように平地に川が流れている、地味の肥えた場所に遠い昔より集まり住んできたのでしょう。

そのような場所に今回の目的地である保渡田古墳群がありました。

これまででも、ときどき古墳の話を目にしてはいても、実際に見たのは奈良市北部にある元明・元正天皇陵と、佐保路にある聖武天皇陵と光明皇后陵だけでした。それでさえ今から十二、三年前の

話になりましょうか。小高い丘のようで、木々が茂っていたことを憶えています。今回も古墳というからには、木が多く茂り、こんもりとした小山のように思っているに違いないだろうと思い込んでいました。ところが、バスの車窓から見えてきた八幡塚古墳は全く姿を異にしていたのです。それは木など一本もなく、つくられた当初の姿を復元されたのであろう前方後円墳だったのです。

八幡塚古墳は、二子山古墳、薬師塚古墳と共に保渡田古墳群として国の史跡に指定されているそうです。また、「かみつけの里博物館」も併設されていて、先ずその見学から始まりました。内部には古墳からの出土品、中には黄金でつくられたクツもありましたが、埴輪や、古墳がつくられた頃の風景が模型で再現されていました。

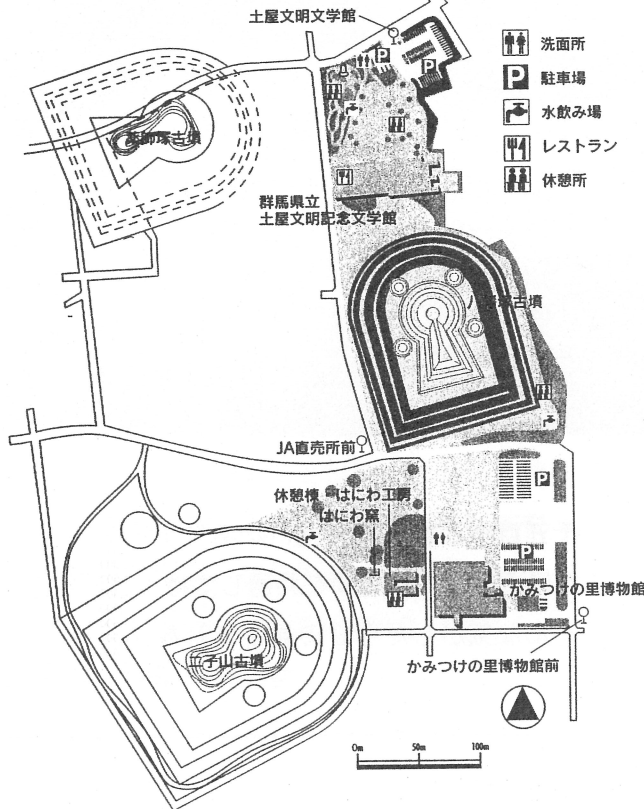
この地は六世紀初めに起きた、大規模な火山災害により、つもった灰で集落などが良好な状態で



記念写真（田代昭夫撮影）

上毛野はにわの里公園ガイド

八幡塚古墳の周囲は大きな公園となっています。古墳時代の群馬県地域が上毛野と呼ばれたことにちなんだネーミングです。博物館や文学館、二子山古墳、薬師塚古墳、はにわ工房など見どころいっぱいです。休憩棟や駐車場も整備されています。公園内にはバス停が3カ所あります。

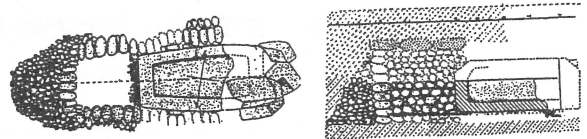
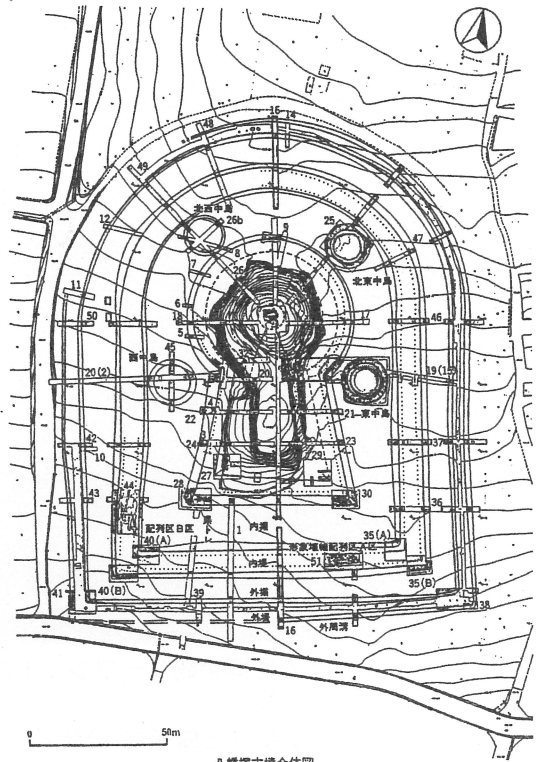


かみつけの里博物館リーフレットから

地下に残されているそうです。

模型には集落が点存し、ひときわ大きな屋敷もあります。有力者のものでしょうか。それを囲むように小さな家々があります。そして流れる川にそって田畑が作られ、用水路が伸びていてまたそこに田畑がある。その昔、清らかな水をたたえていたであろう古代の川は、いにしえ人の生活には欠くことのできないものだったのでしょうか。広大な田畑が広がっています。これだけの田畑があるということは、かなり豊かな土地だったのでしょうか。あれだけの古墳をつくることが出来たのですから。人々の生活が目に見えるようでした。遠い昔、人々は如何なる日々を過ごしていたのでしょうか、と思ひめぐらしました。

博物館の見学を終えて、八幡塚古墳に移りました。周囲には堀がめぐらしてあります。神聖なる

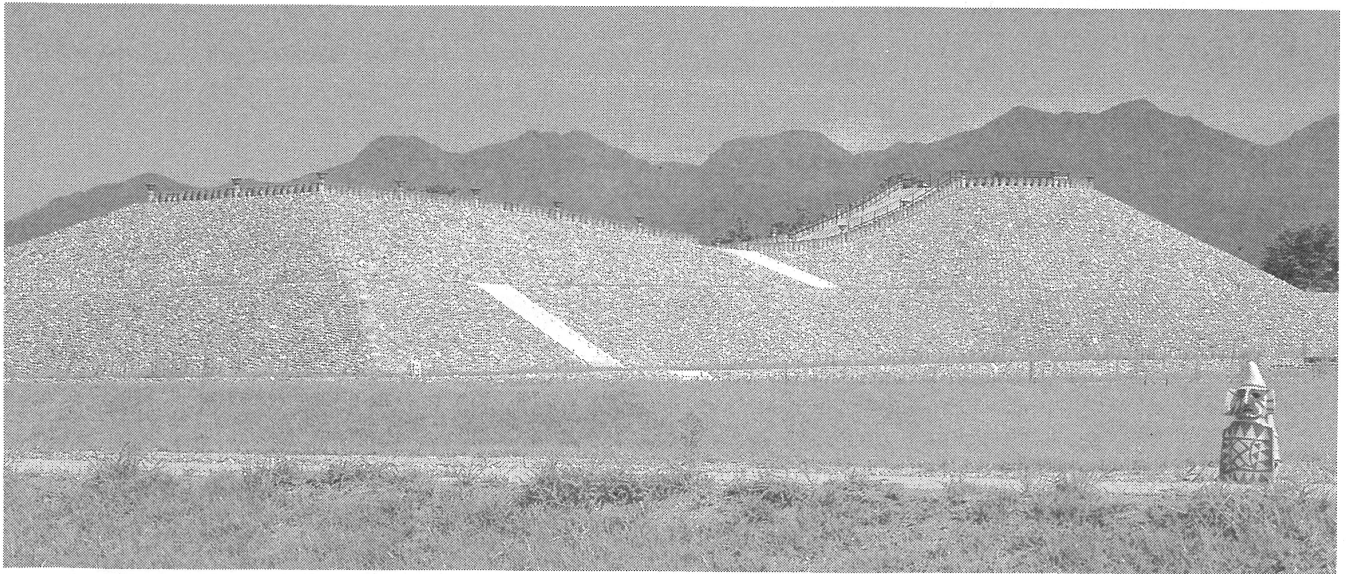


八幡塚古墳全体図（稲村氏の説明資料から）

場所とするゆえでしょうか。堀の中にはいくつかの島もあります。まつりの場だそうです。古墳自体は何段かに段がつけられて土で埋められ、斜面には実に整然と石が埋め込まれています。頂上部平地の周囲には埴輪が一行に並べられています。この中には、ここに見学を訪ずれた人が作られたものもあるようです。名前などが入っているものもありました。

円形部分の内部には、石棺が納められています。大きなものでした。この石棺に納められているのは一体、どのような王だったのでしょうか。幾世紀を土の下で過ごしてきた石棺をただただ声もたてずに見つめるばかりでした。

二子山古墳の方は、すでに形は崩れてしまい、見たところ古墳とはとうてい思えないほどでした。しかし、今でも土器片が見つかることもあるとか。



八幡塚古墳（かみつけの里博物館リーフレット）

この時に見つけられた方もいた様子でした。

天気の良い日でしたので、空にはひばりがさえずりながら飛んでいます。古墳がつくられた時もきっと、こんな日があったのではないのでしょうか。

千五百年という時の違いはありますが、何か一部だけ古代の人と時間を共通して持つことが出来た、そんな気がした今日の見学でした。

かみつけの里博物館の案内

群馬県群馬町井出1514 ☎ 027-373-8880

■交通のご案内

- 東京駅から上越新幹線 JR高崎駅まで約60分
- JR高崎駅からタクシーで約20分
- JR高崎駅からバスで約30分(群馬バスしんとう温泉行・秋葉前下車)
- JR前橋駅からバスで約30分(関越交通バス土屋文明文学館行・かみつけの里博物館前下車)
- 関越自動車道 前橋I.Cから車で約15分



編集部後記

ベントのバス中では横須賀市人文博物館の稲村繁氏による神奈川県と群馬県をめぐる古墳や埴輪の説明がありました。A3版5ページの資料を作成していただきました。現地でご説明いただいたかみつけの里博物館の若狭徹氏と群馬県立歴史博物館の平野進一氏に感謝申し上げます。宝塔山古墳と蛇穴山古墳も圧巻でした。今回参加できなかった会員諸氏の見学をお勧めします。次回は東北の縄文貝塚めぐりです。

考古かながわ 第24号

発行 神奈川県考古学会
 発行日 2002年8月15日
 編集者 岡本孝之・近藤英夫・安藤文一・
 小林義典・渡辺 務
 印刷 (有)湘南グッド
 発行者 神奈川県考古学会会長 寺田兼方
 〒251-0043
 藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘102
 郵便振替 00240-9-71208